

## 2月25日から受講生の募集を開始

# 平成23年度 華頂短期大学「京都学学修プログラム」

週に2科目、総120時間の社会人女性のための学修プログラムです。  
歴史文化学科の授業受講で、履修証明書を交付します。

華頂短期大学では、履修証明制度<sup>※</sup>に基づいて京都について学ぶ「京都学学修プログラム」を開設します。「京都学学修プログラム」では、京都という都市が果たしてきた役割、すなわち歴史の舞台として政治・経済の中核的役割を果たしてきたばかりでなく、文化の中心として王朝文化の発信源でありつづけ、食や服装文化を築き上げ、多くの文芸・芸能のルーツを生んできた京都について、履修証明制度に基づき体系的に学べるよう科目を設定しています。本プログラムで設定した科目について修了要件を満たした方には、プログラム名称を明記した履修証明書を交付します。

※履修証明制度は、学校教育法の改正によって、平成19年12月26日より施行された、大学等の社会貢献をすすめるための制度です。大学等においてはそれまでの学生を対象とする学位プログラムの他に、社会人等の学生以外の者を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム（履修証明プログラム）を開設し、その修了者に対して法に基づく履修証明書を交付できるようになりました（法第105条等）。

## 京都学学修プログラム

◆授業期間：春学期 平成23年4月 5日（火）～平成23年7月20日（水）  
秋学期 平成23年9月21日（水）～平成24年1月20日（金）

◆時間帯：Ⅰ講時・・・9:00～10:30  
Ⅱ講時・・・10:40～12:10  
Ⅲ講時・・・13:00～14:30  
Ⅳ講時・・・14:40～16:10  
Ⅴ講時・・・16:20～17:50

◆プログラムの構成（開設授業科目等）

期間	科目名	担当教員	曜日・時間帯	履修条件
春学期	京都の歴史	伊藤 真昭	火・Ⅳ講時	必修受講 3科目のうち、 1科目を選択受講
	京の年中行事	斉藤 利彦	火・Ⅲ講時	
	史料講読Ⅰ	田中 嗣人	木・Ⅲ講時	
	京都体験実習（1）	塩田 二三子	木・Ⅳ講時	
秋学期	歴史特論（3）〈近世～近代〉	新矢 昌昭	月・Ⅲ講時	4科目のうち、 2科目を選択受講
	京の伝統芸術	安倍 嘉一	月・Ⅳ講時	
	京都観光マーケティング	川島 智生	月・Ⅴ講時	
	京の食生活	塩田 二三子	火・Ⅳ講時	

\*各科目の開講曜日・時間帯は変更となることがあります。あらかじめご了承ください。

◆平成23年度受講生募集内容

【京都学学修プログラム】 京都の新たな魅力を発見、その普遍的価値を社会に発信する力の養成	
開設学科	歴史文化学科
目的	皇城の地・千年の都として、政治・経済、文化史・都市論など歴史の舞台として中核的役割を果たしてきた面と、京都盆地特有の気候や風土・地勢から、独特な風俗習慣や言葉遣いが生まれてきた地域史的な面とを総合的に学ぶことで、京都の新たな魅力を探り出し、その普遍的価値を社会に発信する力を身につける。
開設授業科目	歴史文化学科で開講している8科目のうち、履修条件にしたがい、選択のうち4科目を受講する。 ● 授業については、初めて大学教育を受ける学生に合わせた、基礎的な内容・レベルが中心となります。
総時間数	120時間
履修資格	下記のいずれかに該当する女子 1. 高等学校を卒業した者 2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者 3. その他本学学則第9条に定める本学への入学資格を有する者
定員	若干名
修了要件	各授業科目を受講している学生と同様の成績評価方法で基準を充たした場合に修了したと認める。 必要な授業科目すべてに修了した者には、本学が「履修証明書」を交付します。 ● 単位を認定するものではありません。
履修費用	登録料：30,000円 授業料：80,000円 ● 履修が許可された後、振込先をご連絡しますので所定の期日までにお振り込みください。 ● 納入された履修費用は理由のいかんにかかわらず返還いたしません。 ● 上記費用のほかに、科目によっては、教科書代金や実習に関わる実費が必要になる場合があります。
申込方法	問い合わせ先へ申請書類を添えてお申し込みください。(郵送可) (1) 平成23年度履修証明プログラム履修申請書(本学所定の様式)〈次頁〉 (2) 履歴書(JIS規格用紙を使用し写真貼付) (3) 最終学校の卒業(見込)証明書
申込期間(予定)	平成23年2月28日(月)～3月28日(月) ● 申込書類等を持参の場合は土日祝を除く。
問い合わせ先	華頂短期大学 学務部学務課 履修証明プログラム係 〒605-0062 京都市東山区林下町3-456 Tel: 075-551-1311 (月～金) E-mail: kyoumu@kacho-college.ac.jp

# 平成 23 年度 履修証明プログラム履修申請書

華頂短期大学長 殿

貴学履修証明プログラム履修生として下記のとおり履修したいので、申請いたします。

ふりがな			生年 月日	昭和・平成	年	月	日生
氏名	㊟						
住所	〒						
連絡先	自宅電話番号			携帯電話番号			
最終卒業学校名				職業			
履修プログラム名	<b>京都学学修プログラム</b>						
受講科目選択（選択科目に○をつけてください）							
期間	科目名	担当教員	曜日・時間帯	受講科目			
春学期	京都の歴史	伊藤 真昭	火・Ⅳ講時	○（必修受講）			
	以下の科目から1科目に○をつけてください。						
	京の年中行事	斉藤 利彦	火・Ⅲ講時				
	史料講読Ⅰ	田中 嗣人	木・Ⅲ講時				
	京都体験実習（1）	塩田 二三子	木・Ⅳ講時				
秋学期	以下の科目から2科目に○をつけてください。						
	歴史特論（3）〈近世～近代〉	新矢 昌昭	月・Ⅲ講時				
	京の伝統芸術	安倍 嘉一	月・Ⅳ講時				
	京都観光マーケティング	川島 智生	月・Ⅴ講時				
	京の食生活	塩田 二三子	火・Ⅳ講時				

※履歴書（JIS規格用紙を使用し写真貼付）・最終学校の卒業（見込）証明書を合わせて提出してください。

## 開講科目シラバス

授業名	京都の歴史	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	History of Kyoto	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	伊藤 真昭	対象学生	歴史文化学科1回生		
サブテーマ	近世京都観光名所巡り				
授業の概要	京都は今も昔も観光名所であった。『都名所図絵』は本文を京都俳諧師秋里籬島が著し、図版を大坂の絵師竹原春朝齋が描き、京都の書林吉野屋から安永九(1780)年に刊行された。				
到達目標	現在目にする京都と書物の中の京都、何がかわり何が残っているのか、なぜそうなったのか、疑問を持つ目を養うことを目標とする				
評価方法及び基準	試験 (60%) 提出物 ( %) 平常点 (40%) その他 ( %)				
試験方法	定期試験 (レポート )				
テキスト	『都名所図絵』(『京都叢書』)				
参考書	使用しない				
留意事項	大学周辺の歴史的環境に普段から目を向けましょう				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	江戸時代の京都の地図を作ろう	(内 容) 地図の作成 (必要な準備) のり はさみ			
第2回	江戸時代の京都を上から見よう	(内 容) 寺院・神社・町屋・大名屋敷を色分けしよう (必要な準備) マーカー・色鉛筆各色			
第3回	今の京都と比べてみよう	(内 容) (必要な準備) 現在の京都市の地図			
第4回	実際に歩いてみよう	(内 容) 大学周辺の探索をしよう (必要な準備)			
第5回	滝沢馬琴の京都観光 1	(内 容) 『鞆旅漫録』を読もう (必要な準備)			
第6回	滝沢馬琴の京都観光 2	(内 容) 『鞆旅漫録』を読もう (必要な準備)			
第7回	滝沢馬琴の京都観光 3	(内 容) 『鞆旅漫録』を読もう (必要な準備)			
第8回	馬琴の後を追いかけてよう 1	(内 容) 『都名所図絵』を読もう (必要な準備)			
第9回	馬琴の後を追いかけてよう 2	(内 容) 『都名所図絵』を読もう (必要な準備)			
第10回	馬琴の後を追いかけてよう 3	(内 容) 『都名所図絵』を読もう (必要な準備)			
第11回	『都名所図絵』の中の知恩院	(内 容) 知恩院探訪 (必要な準備)			
第12回	『都名所図絵』の中の八坂神社	(内 容) 八坂神社の今昔 (必要な準備)			
第13回	『都名所図絵』の中の四条界限	(内 容) 四条界限の今昔 (必要な準備)			
第14回	『都名所図絵』の中の清水寺	(内 容) 清水寺の今昔 (必要な準備)			
第15回	まとめ	(内 容) 京都の今と昔 (必要な準備)			

## 開講科目シラバス

授業名	京の年中行事	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Annual event ok Kyoto	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	斉藤 利彦	対象学生	歴史文化学科2回生		
サブテーマ	京の歳時記今むかし				
授業の概要	千年の都、京都では季節感を取り入れたさまざまな年中行事がつくられ、今に受け継がれています。春夏秋冬の京の年中行事について、歴史的展開を含めながら、月ごとに考えていきます。主に旧暦を軸にします。				
到達目標	京都の年中行事についての知見を深めることによって、京都文化の理解をうながし、京都の特色について語るができるようになること。				
評価方法及び基準	試験（80%） 提出物（ %） 平常点（20%） その他（ %）				
試験方法	定期試験（レポート）				
テキスト	テキストは使用しない				
参考書	『京の歳時記今むかし』（別冊太陽 平凡社）				
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	講義ガイダンス	(内容)本講義の方針などの説明 (必要な準備)			
第2回	日本の年中行事について	(内容)日本の年中行事の特色について考える (必要な準備)			
第3回	京の暮らしと1月の年中行事	(内容)1月の年中行事について正月行事を中心に考察。 (必要な準備)			
第4回	京の暮らしと2月の年中行事	(内容)2月の年中行事について節分を中心に考察。 (必要な準備)			
第5回	京の暮らしと3月の年中行事	(内容)3月の年中行事について大念仏会を中心に考察。 (必要な準備)			
第6回	京の暮らしと4月の年中行事	(内容)4月の年中行事について花見を中心に考察。 (必要な準備)			
第7回	京の暮らしと5月の年中行事	(内容)5月の年中行事について端午を中心に考察。 (必要な準備)			
第8回	京の暮らしと6月の年中行事	(内容)6月の年中行事について祇園会を中心に考察。 (必要な準備)			
第9回	京の暮らしと7月の年中行事	(内容)7月の年中行事について盆行事を中心に考察。 (必要な準備)			
第10回	京の暮らしと8月の年中行事	(内容)8月の年中行事について御霊会を中心に考察。 (必要な準備)			
第11回	京の暮らしと9月の年中行事	(内容)9月の年中行事について重陽を中心に考察。 (必要な準備)			
第12回	京の暮らしと10月の年中行事	(内容)10月の年中行事について十夜念仏を考察。 (必要な準備)			
第13回	京の暮らしと11月の年中行事	(内容)11月の年中行事についてお火焚を中心に考察。 (必要な準備)			
第14回	京の暮らしと12月の年中行事	(内容)12月の年中行事について煤払いを中心に考察。 (必要な準備)			
第15回	京の歳時記今むかしのまとめ	(内容)これまでの講義内容についてまとめる。 (必要な準備)			

## 開講科目シラバス

授業名	史料講読 I	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Historical materials reading I	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	田中 嗣人	対象学生	歴史文化学科1回生		
サブテーマ	歴史史料の取扱い				
授業の概要	日本の史料を古代から近代まで通史的に講読し、史料の取り扱い方を学ばせる。予め用意した史料集を学生諸姉に渡し、毎回の講義毎に担当者が史料を読み、意味・内容・問題などを指摘してもらおう。教員は担当者が間違った箇所を丁寧に説明して訂正し、改めて正しい読み方、解釈を示し、担当者が気付かなかった問題点などを指摘し、その史料の歴史的価値などを教示する。				
到達目標	歴史史料に親しみ、歴史論文を書き上げるためにも史料を自由自在に読めるように指導したい。				
評価方法及び基準	試験 (50%) 提出物 ( %) 平常点 (50%) その他 ( %)				
試験方法	平常試験 (筆記 )				
テキスト	使用しない。				
参考書	使用しない。				
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 講義方針の説明 (必要な準備)			
第2回	漢文入門	(内 容) 漢文史料の取り扱い方 (必要な準備)			
第3回	奈良時代以前の史料	(内 容) 学生による講読。教員による講読指導 (必要な準備)			
第4回	奈良時代の史料	(内 容) 学生による講読。教員による講読指導 (必要な準備)			
第5回	平安時代の史料①	(内 容) 学生による講読。教員による講読指導 (必要な準備)			
第6回	平安時代の史料②	(内 容) 学生による講読。教員による講読指導 (必要な準備)			
第7回	鎌倉時代の史料①	(内 容) 学生による講読。教員による講読指導 (必要な準備)			
第8回	鎌倉時代の史料②	(内 容) 学生による講読。教員による講読指導 (必要な準備)			
第9回	南北朝時代の史料①	(内 容) 学生による講読。教員による講読指導 (必要な準備)			
第10回	南北朝時代の史料②	(内 容) 学生による講読。教員による講読指導 (必要な準備)			
第11回	室町時代の史料	(内 容) 学生による講読。教員による講読指導 (必要な準備)			
第12回	桃山時代の史料	(内 容) 学生による講読。教員による講読指導 (必要な準備)			
第13回	江戸時代の史料①	(内 容) 学生による講読。教員による講読指導 (必要な準備)			
第14回	江戸時代の史料②	(内 容) 学生による講読。教員による講読指導 (必要な準備)			
第15回	明治時代の史料	(内 容) 学生による講読。教員による講読指導 (必要な準備)			

## 開講科目シラバス

授業名	京都体験実習(1)	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Practical experience in Kyoto(1)	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	塩田二三子	対象学生	歴史文化学科1回生		
サブテーマ	京都の食の魅力を体験する				
授業の概要	京都は、千年以上にわたり都であったことで全国各地から人とものが集まり、また、京都という地の独特の気候風土によって、他には例をみない文化が創りあげられてきた。この授業では、その中でも「食」の文化について実際に体験することによって、その魅力を肌で感じ、京都の文化に対して興味をより深める。				
到達目標	京都の食文化を実際に体験することで、その魅力を知り、興味を深める。				
評価方法及び基準	出席状況 (50%) レポート (50%)				
試験方法	平常試験 (レポート)				
テキスト	使用しない。				
参考書	使用しない。				
留意事項	「食」の体験実習であるので、調理実習や見学等を取り入れて授業をすすめる。「京菓子づくり」は土曜日を利用して京菓子店に出かけ、そこでプロからご指導をいただく予定をしている。内容、またその実施順については、受講人数等によって変更の可能性があることをご了承いただきたい。また、ひとつの体験実習が終わるごとにレポートを提出してもらう。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の勧め方の説明 および 京都の食文化の特徴について。 (必要な準備)			
第2回	京都の伝統加工食品1	(内 容) 京都の伝統加工食品を取り上げ、その知恵等について学ぶ。 (必要な準備) 京都の伝統加工食品にはどんなものがあるか考える。			
第3回	京都の伝統加工食品2	(内 容) 京都の伝統加工食品を取り上げ、その知恵等について学ぶ。 (必要な準備) 前回の内容を充分復習しておくこと。			
第4回	錦市場見学1	(内 容) 学外実習：錦市場に出かけ、京の台所を言われる所以を探る。 (必要な準備) 錦市場について事前に調べておく。			
第5回	錦市場見学2	(内 容) 錦市場見学を終えて、そこで発見できたことを報告しあう。 (必要な準備) グループ毎に発表の準備をしておく。			
第6回	京料理の歴史	(内 容) 京料理がどのように成立していったのかを学ぶ。 (必要な準備) 京料理とはどんなものをいうのか考えてみる。			
第7回	精進料理体験	(内 容) 学外実習 (予定) (必要な準備) 精進料理について調べておく。			
第8回	おばんざいとは	(内 容) おばんざいとはどのようなものなのかを学ぶ。 (必要な準備) おばんざいにはどんなものがあるか考えておく。			
第9回	おばんざいづくり	(内 容) 調理実習 (必要な準備) 前回の内容を充分復習しておくこと。			
第10回	京菓子づくり	(内 容) 学外実習 (予定) (必要な準備)			
第11回	京の行事食1	(内 容) 四季折々の年中行事にまつわる行事食について学ぶ。 (必要な準備) どんな行事食があるか考えておく。			
第12回	京の行事食2	(内 容) 調理実習：夏越の祓とその行事食(水無月づくり) (必要な準備) 前回の内容を充分復習しておくこと。			
第13回	京野菜とは	(内 容) 京の伝統野菜とはどのようなものかを学ぶ。 (必要な準備) 京野菜にはどんなものがあるか考えておく。			
第14回	京野菜を使った料理づくり	(内 容) 調理実習：京の伝統野菜を調理し、味わう。 (必要な準備) 前回の内容を充分復習しておくこと。			
第15回	まとめ	(内 容) これまでの授業を振り返り、総括をする。 (必要な準備) 自分なりにこれまでの復習をしておく。			

## 開講科目シラバス

授業名	歴史特論Ⅲ(近世～近代)	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Special Topics in History(3)	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	新矢 昌昭	対象学生	歴史文化学科1回生		
サブテーマ	将軍と天皇を巡る葛藤				
授業の概要	通史的な歴史理解を前提にして、より専門的な近世期から近代期の歴史と文化史を学ぶ。特に、近世から近代の歴史の変換期は京都を抜きにしては語れない。そしてそれは天皇を中心とした政治的、文化的な問題として集約できるだろう。江戸初期における徳川家と天皇との関係、幕末・維新の京都、明治国家と天皇制を中心としたテーマで多角的な視点から京都をとりまく歴史と日本の国家としての形を考えてみたい。				
到達目標	将軍にとって、何故天皇が必要であったのか。また、近代日本においての天皇の意義について考え、京都の歴史的な意義を捉えて欲しい。				
評価方法及び基準	試験(80%) 提出物(0%) 平常点(20%) その他(%)				
試験方法	定期試験 (筆記)				
テキスト	使用しない。				
参考書	講義中に指摘する。				
留意事項	将軍と天皇の関係を中心に京都の意義について歴史から学ぶ。通史的な理解を抑えておくこと。また、わからない箇所は講義後に聞くこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス	(内容)この講義はどのようなことをするのか。 (必要な準備)			
第2回	徳川幕府前史	(内容)織豊政権と天皇の関係。 (必要な準備)織豊政権の基礎知識。			
第3回	徳川幕府の誕生と天皇	(内容)禁中並公家諸法度と紫衣事件。 (必要な準備)禁中並公家諸法度と紫衣事件の認識。			
第4回	正当性を巡る問題1	(内容)熊沢蕃山「日本」の支配者。 (必要な準備)熊沢蕃山という人物。			
第5回	正当性を巡る問題2	(内容)水戸学における天皇と将軍。 (必要な準備)水戸学の基礎知識。			
第6回	外国人の将軍観と天皇観	(内容)外国人の将軍観と天皇観。 (必要な準備)鎖国と外国との関係。			
第7回	徳川中期の京都	(内容)京都民衆の将軍観と天皇観。 (必要な準備)将軍という官職。			
第8回	幕末の将軍と天皇1	(内容)勤皇攘夷運動と桜田門外の変。 (必要な準備)勤皇攘夷運動と桜田門外の変の認識。			
第9回	幕末の将軍と天皇2	(内容)勤皇攘夷運動と長州藩。 (必要な準備)長州藩の特色。			
第10回	幕末の将軍と天皇3	(内容)大政奉還から戊辰戦争へ。 (必要な準備)大政奉還と戊辰戦争の認識。			
第11回	将軍と天皇の明治維新	(内容)敗者と勝者の行方。 (必要な準備)明治維新の基礎知識。			
第12回	近代と復古	(内容)近代国家ヴィジョンと国家神道体制。 (必要な準備)国家神道の認識。			
第13回	天皇の巡幸と御真影	(内容)「見られる」天皇から「肖像」の天皇へ。 (必要な準備)天皇の巡幸経路。			
第14回	首都京都の終焉	(内容)東京遷都と民衆。 (必要な準備)東京遷都の経緯。			
第15回	まとめ	(内容)歴史と現在。 (必要な準備)			

## 開講科目シラバス

授業名	京の伝統芸術	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Traditional arts of Kyoto	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	安倍 嘉一	対象学生	歴史文化学科2回生		
サブテーマ					
授業の概要	京都の伝統文化、伝統産業等を概観し、有形無形の文化、それが昇華した伝統芸術に触れて行きたい。				
到達目標	京に生まれた伝統文化・伝統芸術を見ていく事で、京都の歴史や伝統の重み、また伝統の大切さを知ってもらいたい。				
評価方法及び基準	試験（50%） 提出物（30%） 平常点（20%） その他（ %）				
試験方法	定期試験 （筆記 ）				
テキスト	特になし				
参考書	特になし				
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	伝統と芸術	(内 容) (必要な準備)			
第2回	京の伝統 ①	(内 容) 暮らし・衣食住 (必要な準備)			
第3回	京の伝統 ②	(内 容) 年中行事 (必要な準備)			
第4回	京の伝統 ③	(内 容) まつり (必要な準備)			
第5回	京の伝統 ④	(内 容) 民族芸能 (必要な準備)			
第6回	京の伝統 ⑤	(内 容) 能・狂言 (必要な準備)			
第7回	京の伝統 ⑥	(内 容) 茶 (必要な準備)			
第8回	京の伝統 ⑦	(内 容) 花 (必要な準備)			
第9回	京の伝統 ⑧	(内 容) 書画 (必要な準備)			
第10回	京の伝統 ⑨	(内 容) 焼き物 (必要な準備)			
第11回	京の伝統 ⑩	(内 容) 染織 (必要な準備)			
第12回	京の伝統 ⑪	(内 容) 工芸 (必要な準備)			
第13回	京の伝統 ⑫	(内 容) 建築 (必要な準備)			
第14回	京の伝統 ⑬	(内 容) 庭園 (必要な準備)			
第15回	再び伝統と芸術	(内 容) まとめ (必要な準備)			

## 開講科目シラバス

授業名	京都観光マーケティング	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Marketing of sightseeing in Kyoto	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	川島智生	対象学生	歴史文化学科2回生		
サブテーマ	観光産業、マーケティング、経営戦略、京都イメージ、フィールドワーク				
授業の概要	京都観光について、関わる各事業ごとのマーケティング戦略を検証し、理解させる。実際に京都観光のマーケティングについてのフィールドワークもおこない、各自がレポートとしてまとめ、発表をおこなう。				
到達目標	京都観光におけるマーケティングの役割ならびに、関連性についての理解を到達目標とする。				
評価方法及び基準	試験（ ） レポート（50%） 平常点（30%） その他（20%） 出席は6割以上、レポートは必ず提出すること。またプレゼンテーションの発表をおこなうこと。				
試験方法	平常試験（レポート）				
テキスト	山上徹『観光の京都論』学文社				
参考書	山上徹『京都観光学』法律文化社、『京都観光学のススメ』人文書院				
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス	(内 容) 半年間のスケジュールならびにオリエンテーション (必要な準備)			
第2回	京都観光とマーケティング戦略	(内 容) 京都観光とマーケティング戦略について (必要な準備) テキスト p169～p187 を事前学習			
第3回	京都観光の文化的戦略	(内 容) 京都観光の文化的戦略について (必要な準備) テキスト p147～p167 を事前学習			
第4回	京都観光の地域観光事業	(内 容) 京都観光と地域観光事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習			
第5回	京都観光のリゾート事業	(内 容) 京都観光のリゾート事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習			
第6回	京都観光のテーマパーク事業	(内 容) 京都観光のテーマパーク事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習			
第7回	京都観光のツーリズム事業	(内 容) 京都観光のツーリズム事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習			
第8回	京都観光の宿泊事業	(内 容) 京都の宿泊事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習			
第9回	京都観光のイベント事業	(内 容) 京都観光のイベント事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習			
第10回	京都観光の運輸事業	(内 容) 京都観光の運輸事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習			
第11回	京都観光のマーケティングについてのフィールドワーク(1)	(内 容) 京都観光のマーケティングについてのフィールドワーク (必要な準備) 当該事業の事前学習			
第12回	京都観光のマーケティングについてのフィールドワーク(2)	(内 容) 京都観光のマーケティングについてのフィールドワーク (必要な準備) 当該事業の事前学習			
第13回	プレゼンテーション(1)	(内 容) 各自がリサーチした京都観光マーケティングについて発表 (必要な準備) プレゼンテーションの用意とレジユメの配布			
第14回	プレゼンテーション(2)	(内 容) 各自がリサーチした京都観光マーケティングについて発表 (必要な準備) プレゼンテーションの用意とレジユメの配布。			
第15回	レポートの提出	(内 容) 各自がリサーチした京都観光マーケティングについてのレポートの提出 (必要な準備) レポートの用意			

## 開講科目シラバス

授業名	京の食生活	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Eating habits of Kyoto	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	塩田二三子	対象学生	歴史文化学科1回生		
サブテーマ	京都で生み出された食文化の特色とその魅力				
授業の概要	京都は、千年余り都がおかれていたこと、そして水にも恵まれ、土壌も肥沃であったこと、さらに四方を山に囲まれた盆地という風土から、他には例を見ない食文化を成立させてきた。この授業では、まず、京料理、おばんざいについて学び、そしてその料理を支えてきた食材について、またそれらが集まった市場について学ぶ。さらに、今にまで伝わる伝統食について学びながら、京都の食文化の特色と魅力を理解する。				
到達目標	京の食文化の歴史的背景とその魅力を理解する。				
評価方法及び基準	定期試験（60％） 受講態度（40％）				
試験方法	定期試験（筆記）				
テキスト	使用しない。				
参考書	使用しない。				
留意事項	この授業だけに留まらず、自ら京の食文化に関する情報を新聞や雑誌等から得るようにすること。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	日本料理と京料理	(内 容) 京料理とは何かを考える。 (必要な準備) どのようなものを京料理というか考えておこう。			
第2回	京料理の歴史 1	(内 容) 平安時代までの流れ。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。			
第3回	京料理の歴史 2	(内 容) 鎌倉時代以降の流れ。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。			
第4回	おばんざいとは	(内 容) おばんざいがどのように成立していったのかを学ぶ。 (必要な準備) おばんざいにはどのようなものがあるか考えておこう。			
第5回	京の食と野菜	(内 容) どのようなものを京野菜というのか学ぶ。 (必要な準備) 京野菜にはどんなものがあるか考えておこう。			
第6回	京の食と魚 1	(内 容) 北前船が運んできた海の幸について学ぶ。 (必要な準備) 京の魚として何が思いつか考えておこう。			
第7回	京の食と魚 2	(内 容) 若狭もの、川魚、ハモ 等について学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。			
第8回	京の食文化と水	(内 容) 京の水が生んだ加工食品について学ぶ。 (必要な準備) 水に深く関わる加工食品にはどんなものがあるか。			
第9回	京とお茶 1	(内 容) なぜ宇治茶が日本茶の代表となったのか学ぶ。 (必要な準備) お茶にはどんな種類があるか考えてみよう。			
第10回	京とお茶 2	(内 容) お茶のおいしい淹れ方について学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。			
第11回	京の市場	(内 容) 京の市場の歴史について学ぶ。 (必要な準備) 古川町商店街の今の様子を見ておこう。			
第12回	行事食 1	(内 容) 五節句の行事食について学ぶ。 (必要な準備) 五節句それぞれにどんなものを食べたか思い出そう。			
第13回	行事食 2	(内 容) 江戸末期の商家における行事食を見てみる。 (必要な準備) 今、自分たちが食べている行事食にはどんなものがあるか思い出しておこう。			
第14回	京の和菓子	(内 容) 京菓子がどのように成立していったのか学ぶ。 (必要な準備) 京都の有名なお菓子を調べてみよう。			
第15回	これからの京の食文化	(内 容) 京の食文化の現在の問題点等を考える。 (必要な準備) これまでの授業全体をふりかえっておこう。			